

クローバー通信

女性医師へのメッセージ

病院長 平田幸一

医学部の入試において女性に不利な選抜方法が一部の大学で行われていたという報道は記憶に新しいところであります。この問題に対する議論は別にしても、そもそも組織の中には年齢、性別を異にした様々な人々が働いており、その大小の組織が地域を作り、国を作っているのです。それをその組織、すなわちここでは獨協医科大学を指すのですが、特に女性医師のワーク・ライフ・バランスを適切なものにするこの重要性に関して異を唱える人はいないと思います。もちろん職場の男女共同参画や育児支援への意識は高まっており、いわゆる働き方改革、すなわち男性医師の育休などを含めた働き方の見直しが女性医師の出産、育児のみならず、医師業務との両立、キャリア形成確保のための支援の基盤となつてゆくことは明白です。実際、他学の方々から素晴らしい制度として認められている、女性医師だけでなく男性医師も利用できる獨協医科大学独自の短時間勤務制度の運用も以前より規模を拡げ着々と進んでいます。

しかし、家庭内ではまだ女性医師だけへの負担が大きいことあるいは医局などの単位で生じる妬みや中傷などの個人的な悩みや、支援制度はあってもその運用に関する悩みなど、様々な訴えを同じような悩みを抱えた多くの人との対話、交流により負担を軽くするのが女性医師支援センターの役目と、病院長で男性である小職は勝手に思っておりますが、いかがでしょうか？

いずれにせよ、超少子高齢化社会の進む現代の日本で、女性医師の皆様が楽しく充実感をもって、医療者という重要な役割を担わなければ、国自体の未来に影をおとすことは明らかでしょう。女性医師支援センターの益々の発展をご祈念しております。

～センターからのお知らせ～

イブニングシッターサービス事業を活用し、春の大型連休期間中に、下記の日程で託児を受け入れることとなりました。詳細につきましては3月下旬頃に案内いたします。

平成31年4月30日(火)

5月1日(水)

5月2日(木)

各日8:00～18:00